

# らぶ Sports@

スポーツを愛する市民の専属情報紙  
 8 / 4 号  
 毎週水曜日発行  
 わき民報 (夕刊)

砂浜でアタック!!  
 ビーチバレーよつくら大会

市民スポーツ教室  
 わくわく体操教室が開講

県の頂点目指して  
 県中学校体育大会

7月27日に市立総合体育館で  
 開講したわくわく体操教室。  
 小学生が夏休みの思い出づく  
 りと体力向上に励む。

ソフト、フットで熱戦  
 内郷愛護連盟球技大会

challenge!  
 2010

小名浜製錬所  
 バレーボール部



# challenge! 2010 小名浜製錬所 バレーボール部



小名浜製錬所バレーボール部は7月末、栃木県で開催された全日本9人制バレーボール実業団男子選手権に出場した。予選グループ戦では富士通小山(栃木)、ジェイテクトスピアーズ(奈良)と対戦。連敗の終戦にも、2試合ともにジュニアの接戦を演じるなか、コートに立つ半数が40代のベテランチームは酷暑の戦いで意地を見せた。加藤誠一監督は力を出し切れたと納得の表情を見た。

不況により、実業団チームを取り巻く環境は厳しい。4月に行われた全日本県予選の出場チームは男子2、女子1。ピーク時に男子20チーム余あった実業団バレーは存亡の危機に瀕(ひん)している。小名浜製錬所も不況のおりを受け、昨年の県予選は出場を辞退。今年は会社のバックアップを受けて出場にき着けたが、選手の多くは夜勤をしているため、全休練習に全員がそろつてはほとんどない。

バレーボールは1人3チームまで選手登録できるため、選手は掛け持ちでプレー。自責任のもの、レベルアップを図っている。本年度からいわきバレーボール協会指導普及委員長の職に就いた加藤監督も昨年11月から今年3月まで、市内32の家庭婦人バレーボールチームを巡回指導。いわき地区全体に目を向けながら指導者としての資質向上を怠らない。40年以上の歴史を有し、昭和56年から平成3年までの11年間で全日本に9回出場している古豪。実業団バレーの灯を消さないためにも加藤監督は選手は次の通り。

菊地勝衛 相原信一 箱崎隆裕 佐藤志信 酒井洋一 住谷淳 鈴木利夫 野村勇政 新妻勝徳 佐藤和哉 今川智弘 渡辺貴志



## いわきではバスケ、バドミントンに熱戦 第53回県中学校体育大会

メイン期間となる7月22～24の3日間、県内各地で15競技に熱戦を繰り広げた。このうちいわき市内では、バスケットボールとバドミントンを開催。バスケットボールでは女子で中央台北が堂々の4強入り。バドミントンの女子シングルスでは薄葉なつみ選手(中央台北)が8強に食い込んだ。



## 内郷少年愛護連盟 球技大会

内郷子ども祭りのイベントとして7月25日、天田公園で開催された。45回を迎えた今回はソフトボール、フットベースボールに各3チームが出場。総当たりリーグ戦で激突した結果、ソフトボールは竹久内子供会、フットベースボールは内町第一仲好会が優勝した。



## 22年度市民スポーツ教室 わくわく体操教室

市教委が毎年度夏休みに開催している小学生対象の市民教室。本年度は7、8月に全5回コースで開催する。いわき体操協会の若松功さんを講師に迎え、跳び箱や鉄棒、平均台、マット、トランポリンなどの器具を使った運動にも取り組む。

## 夏こそスポーツ 汗を流して暑さを吹き飛ばせ!!



## 第19回ビーチバレーボールよつくら大会

県内外から約100チームが出場し、7月25日に四倉海水浴場で開催した。四倉地区体協、同大会実行委員会の主催。選手は真夏の太陽を背に、はつらつプレーを展開。白熱の優勝争いを展開した結果、ボボ・ブラジルが栄冠を手にした。

スポーツ

シリーズ

いわきで、今

365

いい汗、流そー!

らぶSports@サークル



たいらフラサークル

- 会員数 10人(男0人、女10人)
- 代表者 大和田 ハツ子
- 活動 毎月第2、第4月曜日午後1時半から3時半まで、市生涯学習プラザ。昨年8月に発足したばかりのサークルで、メンバーは60代を中心としたやる気に満ちた人ばかり。「ハワイアン音楽に乗せて踊っているとリラックスでき、腰痛や肩凝りも消えていく。先生の指導もやさしく分かりやすい」と話す。今年2月にはアリオスで初舞台を踏んだ。
- P R 人数が少ないので、一緒に踊ってくれる仲間を募集中。興味のある人はぜひ見学に来てほしい。

M55の1000円ハードルで県新、大会新をマークした齋藤仁選手(55)



第21回県マスターズ陸上競技選手権大会 8月1日、いわき陸上競技場で開催

午前9時の気温が34度という酷暑のいわき陸上競技場で1日、第21回福島県マスターズ陸上競技選手権大会が開かれた。県内外から参加した選手たちの年齢は36歳から80歳までさまざま。若者のような体力は失っても、記録へ挑戦する魂は夏の太陽のようにメラメラと燃え盛っていた。

挑戦に終わりはない!

マスターズ陸上を楽しむ

を経験した人ばかりでなく、他の競技からの転向組や初めてスポーツを始める人もいる。「自己記録の更新と優勝を目指す」「健康管理の一環として続ける」「仲間づくりの機会になる」。そこにはいろいろな楽しみ方があるのだ。

わが国では1980年4月に現在の日本マスターズ陸上競技連合を誕生し、その年に第1回全日本マスターズ陸上競技選手権大会が始まっている。今年はずいぶん30年目の節目の年。日本からアジアへ、そして世界へ。日ごろの節制やたゆまぬ練習によって、年齢が上がるにつれて体力の衰えが少なくなっている。若い世代に比べ好成績を収めている。

2006年には100歳の岩手県の男子選手がやり投げ11.06m、円盤投げ9.84mの世界記録をつくらせている。今回の県マスターズ選手権8000円に出場した緑川七郎さん(郷ヶ丘)は78歳でなお2分49秒16をマークしたが、75歳のとき、M75(75〜79歳)1500

と「30年ぶりにスパイクを履いて初めてマスターズ陸上(山形)に出場した。いわきでの大会が2度目だが、右ひざの故障をもろとせず、10台のハードルを越えた。それでも「本当は18秒台を狙ったんだが」と悔しさを見せた。この年齢を感じさせない精神力が何より大切なだろう。



夫婦で数々の大会に出場している高山のり子選手(68)。今回は1人での挑戦だった



女子2000円W50で県新の伊藤愛子選手(54)は3児の母で体操競技の指導員



男子砲丸投げM55で大会新をマークした嶋田昌明選手(55)は2種目で優勝

情報くりっぽ

- (5〜11日)
- 【7日】▼第18回常磐交通観光杯平七ツサツカー交流大会(仁井田運動場など) 11日▼カデット卓球大会(市立総合体育館)▼大学・高校・社会人バレーボール交流大会(内郷コミュニティセンター) 11、12日。
- 【8日】▼第24回丹羽旗少年剣道優勝大会(市立総合体育館)▼第30回伊藤杯・第6回山田杯弓道大会(いわき弓道場)▼親子キャッチボール教室(いわきグリーンスタジアム)▼第36回県小学生学年別柔道いわき地区予選(南部アリーナ)▼女子バレーボール愛好会リーグ戦(小名浜武道館)
- 【開催中】市教委主催の22年度市民スポーツ教室「シェイプアップトレーニング教室」が現在、市立総合体育館で開催されている。
- 同教室では運動不足の解消や体力の維持向上を目的に、ストレッチやエアロビック、ウエイトトレーニング、トランポリンに取り組む。
- 講師は齋藤英美(ストレッチ)、木田佳子(エアロビック)、高橋和重さん(ウエイトトレーニング)の3人と、いわきトランポリン協会指導員が務める。
- 今後の開催日は8月9、23、30、9月6、13、27、10月4、18、25、11月8、15、22、12月6日。時間は午後7時〜9時。入館料のみ100円で受講できる。

水曜日の顔

